

聖者の行進(鍵盤ハーモニカ・鉄琴)/ 「パンパン」タンブリンのリズムうち

教科・場面

音楽

授業・実践のねらい

- ・楽器を補助具を使って演奏してみよう
- ・動作に沿った音楽を使用し、音階やリズムを感じたり、自分で表現したりしてみよう

対象の児童・生徒

小学部3年生(4人)
プリンG(3人) ゼリーG(1人)

教材・教具



工夫したところ

- ・手に入りやすく、児童にも簡単に空気を送りやすいポンプを利用した。
- ・持ち手が丸く、重みがあるので安定してたたきやすい。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

① 鍵盤ハーモニカ

吹くことが難しい児童のために押すことで音を鳴らせるようにした。鍵盤にはマスキングテープを貼っておき、ポンプを押すと音が出るようにした。

② マレット

持ち手が丸く重みがあるので、先に玉がついて重みがあるようなマレットでも安定して叩きやすい。

③ パンパン

ミュージックケアの教材。リズムを意識できるように作曲されている。1つのタンブリンを教師が持って順番に児童をまわり、曲のタイミングに合わせて児童に提示した。

教師からはタイミングを計ってタンブリンを提示する以外は指示することはなく取り組んだ。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ① ポンプが児童自身の力で押すには少し重かったが、教員と取り組むことで楽しんで演奏することができた。
- ② マレットが握りやすく、少し重みがあることで安定して叩くことができた。
- ③ 継続して取り組むことで児童自身がリズムを意識して楽器を叩く回数を自らコントロールできるようになった。タンブリンが順番に回ってくることで、友だちを意識したり順番を意識したりして取り組むことができた。